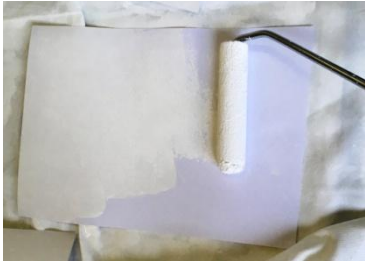





関係者各位

株式会社ケミカル・テクノロジー

セルフクリーニング実演シートの作り方

工 程	内 容	画 像
1. 全面に着色塗装	A4サイズの画用紙にお好みの着色塗装を施します。シーラー不要です。乾燥後に高い撥水性を示すものがとくに好ましく、弊社では「水系ファインコートシリコン」&単層弾性では「BeニューSi」を採用しています。ジョリパットも可能ですが、これは撥水性がわかりにくいのが難点です。	
2. 半面に光触媒塗装	着色塗装後、指触乾燥が確認できたら右半分にNFE2をローラー塗布します。完全に乾燥させてしまうと、表面の撥水性が高くなりすぎてNFE2がはじかれて塗布しにくくなりますので着色塗装後12時間以内にこれを行って下さい。NFE2は通常ローラー1回塗布で十分な親水性が得られます。	

<p>3. 撥水・親水のコントラスト確認</p>	<p>12時間以上自然乾燥を行ったのちに霧吹きで散水して光触媒塗布部（右）と非塗布部（左）のシャープな親水性の差を確認します。実演での汚染・非汚染の差はほぼ親水性に依存しますのでこれが確認できれば90%以上合格です。散水で親水性の差を顧客に見せて「光触媒を塗布すると親水性になる」と「親水性はセルフクリーニングと相関がある」を理解してもらうのに役立ちます。</p>	
<p>4. 実演の予行演習</p>	<p>ぶっつけ本番は絶対に止めてください。事前に同一条件で作製した実演シート1枚で必ず事前の予行演習を行って下さい。油性汚染液を掛けた後に散水して汚れの落ちやすさを確認します。NFE2は不正工作や作為なしでこの実演ができる唯一の光触媒コーティングですが、油性汚染液の散布前のある程度散水しておくことで汚染の差がよりシャープに出ます。</p>	

油性汚染液の配合

原 料	内 容	比 率
食用油	いわゆるサラダ油	97～99
油性黒顔料マスター液	DNT製「マイティカラー溶剤・黒」あるいは横浜化成製「ハイコンク溶剤 黒」	1～3
合計		100

※比率は実演シートの作製条件や顧客の好みによって変わります。事前の予行演習で調整する慎重な姿勢が大切です。